



文部科学省IB教育推進コンソーシアム

IB教育アドバイザー　好事例共有シリーズ

2026年8月6日
ぐんま国際アカデミー中高等部
髙松　森一郎

# 一条校MYPにおける道徳科の位置づけ

## はじめに

一条校におけるMYPのカリキュラム・マネジメントは、学習指導要領とMYPの実施要件の双方を踏まえる必要があるため、より複雑なものとなります。各教科については、両者の枠組みを比較的整合させやすい一方、学習指導要領における総合的な学習の時間、道徳科、特別活動と、MYPにおける行動としての奉仕、コミュニティー・プロジェクト、パーソナル・プロジェクトなどを、学校全体の教育課程の中でどのように位置づけるかは、大きな検討事項となります。この点については、「好事例共有シリーズ Vol.3」でも取り上げました。

MYPの実施要件に含まれる教科の枠を超えた学習活動については、そのための時間をどのように確保するかが現実的な課題となります。一方で、これらの活動は、その目的や学習の性質を踏まえ、総合的な学習の時間または総合的な探究の時間と関連づけて実施することが可能です。これに対して、日本の教育課程に特徴的な道徳科や特別活動をMYPとどのように関連づけるかについては、各学校の教育課程や方針に応じた検討が必要です。学習指導要領とMYPの実施要件をもとに一つの教育課程を編成する以上、それぞれを別個のものとして並置するのではなく、可能な範囲で有機的に接続したいと考えています。本稿では、その中でも特に道徳科に焦点を当て、MYPとの関連を踏まえながら、道徳科を教育課程の中にどのように位置づけ、実装していくかについて、本校における考え方と実践の一例を紹介します。

## 道徳科とMYPの共通点

表1に、道徳科の内容項目である4領域22項目を示します。これらは、IBの学習者像やATLスキル、行動としての奉仕やコミュニティー・プロジェクトなど、MYPのさまざまな要素と高い親和性があります。道徳科とMYPは、用語や枠組みこそ異なるものの、育成しようとする資質・能力や価値観の多くを共有しています。

表1 道徳科の領域と内容項目

| 自分自身 | 人との関わり | 集団や社会との関わり | 生命や自然、崇高なものとの関わり |
|---|---|---|---|
| ● 自主、自律、自由と責任<br>● 節度、節制<br>● 向上心、個性の伸長<br>● 希望と勇気、克己と強い意志<br>● 真理の探究、創造 | ● 思いやり、感謝<br>● 礼儀<br>● 友情、信頼<br>● 相互理解、寛容 | ● 遵法精神、公徳心<br>● 公正、公平、社会正義<br>● 社会参画、公共の精神<br>● 勤労<br>● 家族愛、家庭生活の充実<br>● よりよい学校生活、集団生活の充実<br>● 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度<br>● 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度<br>● 国際理解、国際貢献 | ● 生命の尊さ<br>● 自然愛護<br>● 感動、畏敬の念<br>● よりよく生きる喜び |

文部科学省(2018)を参考に筆者作成

## 道徳科におけるATLスキルと行動の基盤となる価値観の育成

MYPではATLスキルを明示的に指導することが求められています。一方、各教科では、特に社会情動に関わるATLスキルそのものを、継続的かつ明示的に扱う機会を確保することが難しい場合があります。そこで本校では、道徳科で扱う

価値と、それを日常生活で実践するための具体的なATLスキルを関連づけ、意図的に指導することを試みています。表2は、その関連づけの一例です。例えば、「節度、節制」という内容項目を扱う際には、「心と体の関連性を認識する」「ストレスや不安を減らす方法を実践する」といったATLスキルを取り上げます。また、「希望と勇気、克己と強い意志」では、目標設定、粘り強さ、前向きな思考、失敗からの回復などのスキルを明示的に扱うことができます。このように、道徳科の内容項目をATLスキルに置き換えるのではなく、道徳科で扱う価値と、それを実際の行動につなげるための具体的なスキルを関連づけることを意図しています。

表2 道徳科の内容項目と関連するATLスキル・インディケータ

| 道徳科 | | MYP |
|---|---|---|
| 内容項目 | 概要、指導の要点 | 関連するATLスキル・インディケータ |
| 節度、節制 | 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をすること。 | **[情動]** 心と体の関連性を認識する。<br>**[情動]** 我慢することができる。<br>**[情動]** ストレスや不安を減らす方法を実践する。 |
| 希望と勇気、克己と強い意志 | より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。 | **[自己管理]** 困難だがやりがいがあり、現実的な目標を設定する。<br>**[情動]** 粘り強さと忍耐を示す。<br>**[情動]** セルフトーク(心の中での自分との対話)を管理する。<br>**[情動]** 前向きな思考を実践する。<br>**[情動]** 逆境や誤り、失敗後の「回復」を実践する。 |

国際バカロレア機構 (2022)と文部科学省 (2018)を参考に筆者作成

また、MYPを通して継続的に取り組む「行動としての奉仕（Service as Action）」は、その性質上、実際に何を行ったか、どのような成果が生まれたかといった「行動」や「結果」に目が向きやすい学習活動です。しかし、奉仕を単なる活動として終わらせず、その意味や価値を理解するためには、他者やコミュニティーとどのように関わるのかを考えることが欠かせません。こうした点において、表1の道徳科の内容項目は、奉仕の学習を支える重要な基盤となります。例えば、「思いやり、感謝」「礼儀」「友情、信頼」「相互理解、寛容」といった内容項目は、他者との関係のあり方そのものを考えるものであり、相手の立場や考えを理解し、互いを尊重しながら関係を築くという奉仕のあり方につながります。

本校では、こうした考え方をもとに、行動としての奉仕を身近なコミュニティーへの関わりから段階的に広げています。「家族愛、家庭生活の充実」や「よりよい学校生活、集団生活の充実」と関連づけ、まず家庭、学級、学年、学校など、自分が所属するコミュニティーのニーズや課題、自分にできることを考える活動を行っています。さらに、「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」「国際理解、国際貢献」などと関連づけ、地域、社会、国家、世界へとコミュニティーの捉え方を広げています。また、「生命の尊さ」「自然愛護」「感動、畏敬の念」「よりよく生きる喜び」を通して、人間社会だけでなく、自然や生態系を含むより広い関係性やシステムについて考える機会も設けています。

このように本校では、道徳科を、他教科では扱いにくい社会情動に関わるATLスキルの育成と、社会やコミュニティーとの関わりの中で行動する際の方向性を支える価値観の育成の両方を担う場として位置づけることを試みています。これらが、行動としての奉仕やコミュニティー・プロジェクトを含むMYP全体の学び、さらにはその先の学びを下支えすると考えています。

参考文献

国際バカロレア機構 (2022) MYP: 原則から実践へ
文部科学省 (2018) 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編